

国立大学法人岡山大学長の業務執行状況の確認について

国立大学法人岡山大学学長選考・監察会議は、国立大学法人岡山大学学長選考・会議規則第3条の2の規定に基づき、令和5年度における那須保友学長の業務執行状況を確認したので、その結果を公表する。

1 確認の経過

- (1) 第4回学長選考・監察会議（令和6年3月21日開催）において、令和5年度学長の業務執行状況の確認の日程について決定した。
- (2) 第5回学長選考・監察会議（令和6年6月26日開催）において、次の資料及び学長へのヒアリング、監事からの意見聴取に基づき確認を行った。
 - ・令和5年度学長業務執行状況報告書
 - ・令和5年度学長業務執行状況報告プレゼンテーション資料

2 学長選考・監察会議構成員（各五十音順）

経営協議会学外委員

梶 谷 俊 介
加 藤 貞 則
川 崎 誠 治
松 田 正 己
水 田 美 由 紀

教育研究評議会評議員

鈴 木 隆 元
鶴 田 健 二
成 瀬 恵 治
三 村 由 香 里
遊 佐 徹

3 令和5年度学長業務執行状況の確認結果

以下のことから、学長選考・監察会議は、学長の業務執行状況は適正であることを確認した。

【社会との共創】

- ・外部資金の獲得額は42,525千円であり、年度目標の40,000千円を達成していること。
- ・UNCTADとの協働プログラムが、国連により、STI分野におけるジェンダーギャップに関する世界的なイニシアチブ「“SHE in STI”」の代表的な事例として選出され、国連本部に展示されたことのほか、3件の成果を上げており、年度目標の1件を達成していること。

【教育】

- ・外部評価委員会の「教育に関する目標を達成するための措置」に関する外部評価報告書において、「総論として、今後改善すべき点は見受けられるものの中期目標・中

期計画の達成に向けて、概ね順調に進展していると考えられる。」と評価されていること。

- ・リカレント教育の体制を整備したことにより、履修者数は 125 人となり、年度目標の 100 人を達成していること。
- ・国際教育プログラムを推進したことにより、履修している留学生数は 28 人となり、年度目標の 20 人を達成していること。

【研究】

- ・国際共著数増加率は 109% (696 件) であり、年度目標の 104%を達成していること。
- ・民間企業等との共同研究による外部資金獲得額は 111.5% (591, 528 千円) であり、年度目標の 110%を達成していること。
- ・民間企業等との共同研究である「共創の場形成支援プログラム」や「岡山大学半導体研究教育ワーキング」等の各種事業を着実に展開することにより、本学が「産」の実現力、「学」の知、「官」の政策力の融合を進めることで、地域社会課題の解決に貢献する大学を実現する。」というビジョンを掲げ、社会変革につながるイノベーションを創出するためのイノベーションエコシステムの構築・運営に取り組んでいることを学内外に発信していること。

【大学病院経営】

- ・新規企業治験、自施設の研究者が主導する医師主導治験・特定臨床研究・先進医療 B として行う臨床研究の合計件数は 74 件であり、年度目標の 60 件を達成していること。
- ・中国・四国地域の病院間連携を強化・拡充するためのホスピタル・ネットワークの参加施設数を 10 施設と拡大し、CMA-O 治験事業の充実を図ったこと。
- ・多様な医療人を対象としたデジタル等の活用による医療教育プログラムを 6 件提供しており、年度目標の 6 件を達成していること。

【業務運営】

- ・令和 5 年度から執行部体制の見直しを行い、副理事は役員と一体となり全学的管理を担う職と整理し本学における管理職員として位置付け、ガバナンス体制を強化したこと。
- ・SDGs大学経営の下、キャンパス全体の「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」化、サステイナブル化を推進するとともに、保有している施設の適切な配分及び共用を推進するため、キャンパスマスタープランを改定し、多様な利用者への配慮、長寿命化・カーボンニュートラル・DX等へ対応した施設として、津島地区に実験研究棟（工学系）を、鹿田地区に総合研究棟（歯学系）を整備したこと。
- ・研究機器の学外利用料獲得額増加率は202.2%であり、年度目標の150%を達成していること。
- ・学内の戦略的経費のうち先行投資対象の占めるシェアの伸び率は49%であり、年度目標の34%を達成していること。

以 上